



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
2/27 (月)	▲ 400	▲ 2,100	▲ 2,500	流動性供給	国債補完供給 + 59,600 CP等買入 ▲ 800		日: 参院議院運営委員会にて、 植田和男氏への所信聴取
2/28 (火)	▲ 500	+ 7,500	+ 7,000	各種財政支払い	新型コロナ企業金融支援 ▲ 14,500		日: 参院議院運営委員会にて、 内田眞一氏、氷見野良三氏への所信聴取
3/1 (水)	トン	▲ 10,000	▲ 10,000	国債発行・償還 (2年)			
3/2 (木)	トン	▲ 50,000	▲ 50,000	法人税・消費税・保険揚げ			欧: ECB議事要旨 (2月2日会合分)
3/3 (金)	▲ 2,000	▲ 27,000	▲ 29,000	国債発行 (10年)	成長基盤強化 ▲ 2,900		日: 東京CPI (2月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は国庫短期証券の発行等により週初前営業日比▲2兆800億円の522兆3,600億円から始まった。その後21日には国債買入オペ等により524兆7,000億円に増加、22日は国債の発行等により523兆4,600億円に減少し、週末24日は524兆1,900億円に越えた。

無担保コールON物加重平均金利は3日積み要因の剥落から、前営業日比▲0.002%の▲0.009%から始まった。その後はオフアービッドとともに大きな動向の変化はなく▲0.009%～▲0.008%と横ばい圏での推移となった。ターム物は1W～2W物を中心に、主に▲0.030%～▲0.010%の水準で出合いが見られた。

来週の主な予定は、国内で27日の参院議院運営委員会にて、日銀の次期総裁候補として政府が提示した植田和男氏への所信聴取と質疑 (28日に副総裁候補の内田眞一氏、氷見野良三氏への所信聴取) や、3月3日に東京都区部CPI (2月) の公表などがあり海外では3月1日に英中銀総裁の講演、3月2日にECB議事要旨 (2月2日会合分) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.087 ～ 0.001
1M	△0.020 ～ 0.020
2M	0.010 ～ 0.050
3M	0.000 ～ 0.130
6M	0.000 ～ 0.150

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ～ 0.000
CP 3M	0.000 ～ 0.01

<レポ>

足許GC取引は、週を通して▲0.085%～▲0.075%のレンジで取引された。短期3mの入札が行われた24日の取引でも水準に変化は見られなかった。SC取引は2年435～444回債、5年146～155回債、10年350～369回債、20年179～183回債、30年65～77回債、40年13～15回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆9,500億円で、週間償還額 (約2兆9,000億円) を下回った。発行市場は、週前半は落ち着いた展開であったが、週末にかけては月末の償還に対するロール発行により食品や卸売り、電力等を中心に大型の発行が見られた。発行残高は先週末時点の27兆2,383億円から22日時点で27兆4,700億円に増加した。発行レートは、期内案件や発行頻度の少ない銘柄の発行案件に対しては概ね落ちつきが見られた。また、期越え案件のうち発行期間が短い案件等についてはレート目線の緩和が見られた。22日にCP等買入オペが予定通り4,000億円でオフアーされた。結果は、按分レート0.003% (前回同様)、平均落札レート0.015% (前回0.006%) であった。

来週の週間償還額は、約2,800億円となっている。発行市場は5・10日スタート絡みの発行が見込まれることからやや活況を予想する。発行レートは、発行期間や発行残高等によりやや幅の広いレンジ圏での出合いを予想する。

<TDB>

2月24日の3M (1141回債) の入札は、最高落札利回り△0.1303% (前回債△0.1358%)、平均落札利回り△0.1418% (前回債△0.1526%) となった。来週は3月3日に3Mの入札が予定されている。